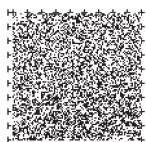


参考資料

アジア美術館の概要(2025(令和7)年4月時点)

名称	福岡アジア美術館	
設置者	福岡市長	
設置目的	アジアの美術を通じてアジアの人々と交流する場を市民に提供することにより、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する (福岡アジア美術館条例第1条)	
設立年月日	1999(平成11)年3月6日	
所在	福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)	
収蔵品数	約5,700点	
職員数	30名 総館長、館長、運営課、学芸課等	
面積	建物面積 151,595.51㎡のうち区分所有専有面積9,101.05㎡ 土地面積(共有持分) 宅地15,932.95㎡のうち持分1,000,000分の113,856 主要諸室面積 コレクション展示室 1,111㎡(7F) 貸展示室(巡回展等) 1,005㎡(7F) 貸展示室(市民向け) 370㎡(8F) 収蔵庫 503㎡(8F) ホール(100席) 172㎡(8F)	
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち地下1階～地上9階の一部	
入館者数等	入館者数380,306人 観覧者数80,706人 ※2024(令和6)年度実績 (参考：福岡市美術館 入館者数667,556人 観覧者数241,415人)	
沿革	1992(平成4)年6月	市長、アジア近代美術館の建設意向表明
	1999(平成11)年3月	博多リバレイン竣工式
		開館
		開館記念展開催(～6月) 「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999 (第5回アジア美術展)」
	2014(平成26)年9月	「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ」開催(～11月)
	2019(平成31)年1月	開館以来の観覧者が500万人を超える
2024(令和6)年3月	開館25周年を迎える	



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

計画策定のこれまでの経緯

年	月	項目	内容
2024 (令和6)	2	議会報告	アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性について報告
	7	第1回 有識者会議※1	議事：アジア美術館の現状と課題及び魅力向上の方向性
	8	第2回 有識者会議	議事：拡充候補地の条件整理
	9	議会報告	機能拡充の方向性、拡充先の条件整理について報告
	10	第3回 有識者会議	議事：拡充先選定にあたっての評価・比較
	12	議会報告	拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証について報告 ⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
	12	第4回 有識者会議	議事：今後の方向性に関する論点の整理
2025 (令和7)	5	第1回 有識者会議※2	議事：魅力向上の基本的な方針(案)について
	6	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (魅力向上の基本的な方針(案))
	8	第2回 有識者会議	議事：魅力向上に向けた各施設のあり方、 拡充先の施設整備の基本的な考え方、 アイデア収集の実施状況について
	8	第3回 有識者会議	議事：拡充先における施設整備について、 施設拡充に向けた事業手法の考え方について
	12	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (施設整備について)
	12	第4回 有識者会議	議事：拡充先における施設整備について、 管理・運営の基本的な考え方、美術館の事業手法、 公園の活用手法について
	2	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (基本計画(原案))

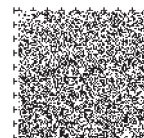
※1 アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議

※2 アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議

※会議資料等については、下記ホームページに掲載しています。

福岡市 アジア美術館の魅力向上の検討について

https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/faam-miryoku/shisei/ajibi_miryokukoujou.html



拡充先の選定について

• 拡充先選定の条件整理

(拡充先に必要な規模感)

拡充先を検討するために、必要な規模感の想定を行いました。主な機能分担のイメージに基づき、拡充先に設けたい、「展示機能」及び「にぎわい・集客機能」に必要となるスペース、並びにそれに伴う「共用・管理スペース」を既存の国内美術館の事例等を参考に設定しました。

展示機能(コレクションを中心とした多様な企画展示)：2,000～2,500㎡、

にぎわい・集客機能：1,000～2,000㎡、共用・管理スペース：約4,500㎡

⇒床面積の規模想定 約7,500～9,000㎡程度、展示室の高さの想定 約4～5m

※拡充先の検討にあたり、一つのモデルとして想定を行ったもの

(選定の前提条件)

・現在の博多リバレイン内での拡充について

まず、現在の博多リバレイン内での拡充について検討を行いました。検討の結果、低層階は、商業施設、複合施設という性格上、フロア中央部のエスカレーターや屋内通路等の共用部が多く、商業施設、複合施設としての導線確保しながら、美術館として必要なロビーや作品搬出入通路などの共用・管理スペースを確保したうえで、想定するまとまった規模の整形な展示室を確保することは極めて困難であるため、他の土地での検討を行うこととしました。

・拡充先として考えられる土地の前提条件

下記のとおり、拡充先として考えられる土地の選定に必要な前提条件の整理を行いました。

① 拡充先の状態について

計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、空地や活用の可能性が見込める予定の土地等であること

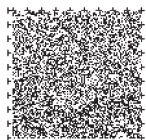
② 拡充先の規模について

・床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度

・展示室の高さの想定 約4～5m

③ 拡充先が位置するエリアについて

・都心部に位置する土地であること



※下記の視点を元に望まれるエリアを検討したもの

*基本理念を体現できる

- ー「まち」の中のライブな(活き活きとした)美術館、都心型美術館ー
- ・ 都心部に位置する場所、周辺施設(商業施設、オフィスなど)が充実している場所
- ・ 時代を先取りする、最先端の文化発信にふさわしい場所

*気軽に立ち寄れ、より多くの、多様な集客が見込める

- ・ 交通アクセスが良く、人流が多い場所
- ・ 市民を中心とした、オフィスワーカーや買い物客、国内外からの観光客など幅広い目的を持った人々が集まる場所

*美術館の特徴が最大限発揮できる

- ・ 美術館が「福岡の顔」として存在感を示す場所
- ・ 周辺施設と連携しながら、アジアとの交流拠点かつアート、文化観光の核として展開できる場所

● 比較検討の評価項目

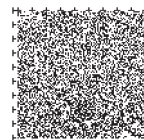
拡充先選定にあたっての評価に必要な評価項目を以下のとおり設定しました。

- ・ 土地の状況(整備の実現性)
- ・ 美術館活動(美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上)
- ・ 利便性(広域からのアクセス、交通アクセス)
- ・ 集客性(歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数)
- ・ 安全性(安全安心)
- ・ 経済性(土地取得費、建設工事費)

● 拡充先選定にあたっての評価・比較

(対象エリアの検討)

拡充先として考えられる土地が位置するエリアについて検討を行い、都心部のうち、現館との近接性・回遊性や、集客性・にぎわい性、都市機能の集積等が高いエリアとして、「天神エリア周辺」「博多駅エリア周辺」「中洲川端エリア周辺」を対象としました。



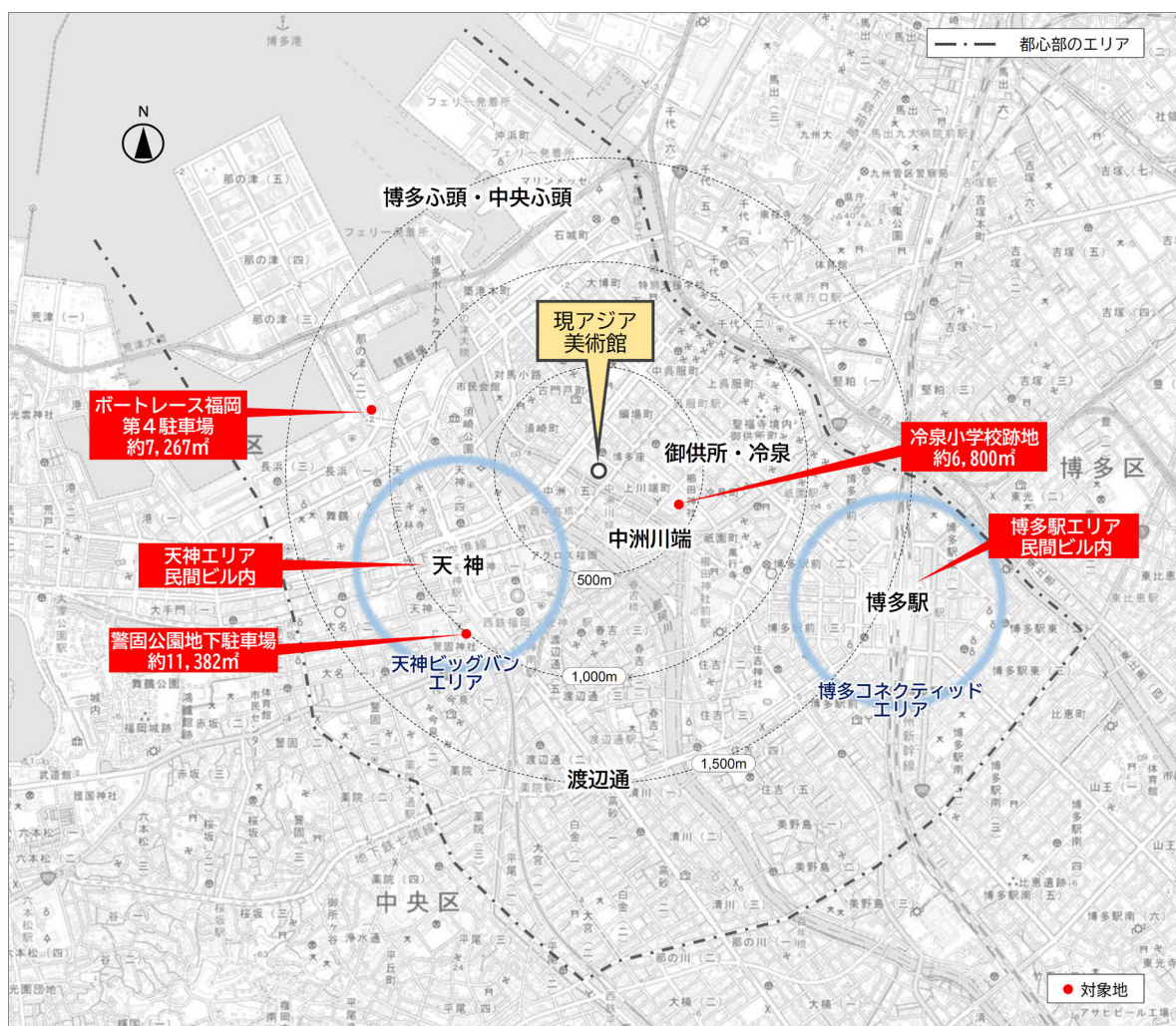
(拡充先として考えられる土地の選定)

選定の前提条件に基づいて、都心部に位置する公有地を優先とし、活用の可能性が考えられる土地や未利用地(跡地)などを洗い出し、それにより、拡充先として考えられる、評価・比較の対象とする土地(対象地)を以下のとおりとしました。

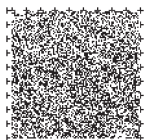
- ・ ボートレース福岡第4駐車場
- ・ 冷泉小学校跡地
- ・ 警固公園地下駐車場(既存利用)
- ・ 天神・博多駅エリアの民間ビル内*

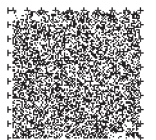
*公有地を優先としますが、比較検討のため、民間用地も含め検討を行いました。

(都心部のうち開発動向が高いエリアとして、天神エリアの天神ビッグバン、博多駅エリアの博多コネクティッドの範囲内にて想定)



対象地の位置図



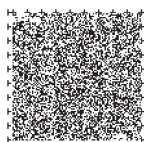


(評価・比較結果)

前述で絞り込んだ対象地について、「比較検討の評価項目」に基づき評価・比較を行いました。

A:非常に優れている5点、B:優れている4点、C:普通3点、D:やや劣っている2点、E:劣っている1点

カテゴリー	公有地	公有地	
対象地	ポートレース福岡第4駐車場	冷泉小学校跡地	
概要	土地面積 約 7,267㎡ 美術館を新設	土地面積 約 6,800㎡ 美術館を新設	
土地の規制状況	準工業地域(準防火地域) 臨港地区(商港区) 建蔽率 60%、容積率 300%	商業地域(準防火地域) 建蔽率 80%、容積率 400%	
比較検討の評価項目	土地の状況	<ul style="list-style-type: none"> 現在、駐車場として利用しており、かつ臨港地区により建てられる建物用途に制限があるものの、実現可能性はある 土地取得に際しては、土地を所管する港湾空港局と本格的な協議が必要 1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地中央部に遺構が横断しており、これを考慮した施設配置を検討したところ、1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保することが困難
	美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上	<ul style="list-style-type: none"> 建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できる 周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と比べ少なく、連携が期待しにくい 文化的施設数が現館よりやや少なく、連携が期待しにくい まちへの文化芸術の面的な広がりが期待しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 当該地は地域をはじめとして、様々な機能の導入が求められており、複合的な施設となる可能性が高く、美術館単体としての象徴的な施設展開が難しくなる懸念がある 周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と同程度であり、連携が期待できる 周辺の文化的施設数が現館と同程度であり、連携が期待できる 市内外から多様な人々が集まり、文化的価値の波及を期待できる
	利便性	<ul style="list-style-type: none"> 主要駅からの到達時間が現館と比べるとやや時間がかかる 最寄のバス停(福岡市民会館)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 	<ul style="list-style-type: none"> 主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 最寄駅(櫛田神社前駅)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能
	集客性	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量が現館に比べ少なく、昼夜も差があり、やや偏りがある 最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い 	<ul style="list-style-type: none"> 昼夜ともに歩行者交通量が多く、多様な集客も見込める 最寄駅(中洲川端、櫛田神社前駅)の乗降客数が多い
	安全性	<p>安全安心(洪水/高潮)</p> <p>対策可能 (約0.5m未満/約3.0m以上)</p>	<p>対策可能 (約0.5~1.0m/約3.0m以上)</p>
	経済性	<p>土地取得費、建設工事費*</p> <p>土地取得費+建設工事費 1.3 ※新築工事費を基準(1.0)とする</p>	<p>建設工事費 1.0 ※新築工事費を基準(1.0)とする ※市有地のため土地取得費不要</p>
	総合評価	<p>50点満点 100点満点 換算</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済性の評価が比較的優れている 整備の実現性や美術館活動、集客性などの評価が高くない 	<p>32点 ↓ 64点</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済性の評価が高く、利便性、集客性なども比較的優れている 整備の実現性がやや劣る
有識者からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 必要な面積が確保でき、建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できるといった評価は妥当 付近に新しく市民ホールが整備されるものの、総合的に周囲との連携が期待しにくい土地と考えられる 多くの市民や来訪者の利便性を考えると、さらに評価は低下する このエリアにおける上位計画との整合性を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 博多部において歴史・文化の観点から重要な場所に位置していると考えられる 敷地を遺跡が横断しており、美術館を拡充するにあたっての面積が十分に確保出来ないため、評価が低いことは妥当 車両が通り抜けできない道があり、この土地の接道条件を踏まえて、美術品輸送の大型車両の動線は検討する必要がある 	

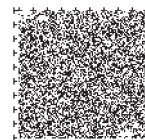


※拡充先を選定するにあたり、重要な視点である、「整備の実現性」、「美術館活動」、「集客性」、「経済性」は2倍として評価する

※土地取得費・建設工事費について

- ・土地の取得を基本的な条件とし、土地取得費には建物取得費も含む
- ・約7,500㎡～9,000㎡の床面積の規模感において、美術館の内装工事費を想定して試算
- ・建設工事費には外構工事(公園整備費等)、備品購入費(展示ケース等)等は含まないものとする

公有地		民間用地	
警固公園地下駐車場		天神・博多駅エリアの民間ビル内	
土地面積 約 11,382㎡ 既存地下駐車場の構造物を活用		民間ビルの低層階に占有	
商業地域(防火地域) 都市公園法により建蔽率 12% 容積率 400%, 600% ※既存公園施設含む		商業地域(防火地域) 建蔽率 80%、容積率 600% ※想定	
<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園法による建蔽率の制限があり、地上部の建築計画に制限があるものの、既存の地下構造物を活用可能であり、実現可能性が高い ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	B 4点 ↓ (8点)	<ul style="list-style-type: none"> ・低層階への配置が望ましいが、民間の開発動向に左右され、美術館配置に関する協議調整・合意形成に時間を要するなど、実現性が不透明 ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	D 2点 ↓ (4点)
<ul style="list-style-type: none"> ・地下であるものの、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できる ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・公園を介して、まちへの文化芸術の面的な広がりが期待できる 	A 5点 ↓ (10点)	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的な施設となり、建築的自由度は施設の状況により左右される可能性がある ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・ビルを中心とした文化芸術のまちへの広がりを期待できる 	B 4点 ↓ (8点)
<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(西鉄天神福岡駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能 	A 5点	<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(天神駅・博多駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能 	A 5点
<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い 	A 5点 ↓ (10点)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅・博多駅)の乗降客数が非常に多い 	A 5点 ↓ (10点)
<p>対策可能 (約0.5～2.0m/約3.0m以上)</p>	C 3点	<p>対策可能と考えられる</p>	C 3点
<p>建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要</p>	A 5点 ↓ (10点)	<p>土地取得費(建物取得費含)+建設工事費 3.0～3.8 ※新築工事費を基準(1.0)とする</p>	D 2点 ↓ (4点)
<ul style="list-style-type: none"> ・美術館活動や利便性、集客性、経済性の評価が高く、その他の項目についても比較的優れている 	46点 ↓ 92点	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性、集客性の評価が高い ・整備の実現性、経済性がやや劣る 	34点 ↓ 68点
<ul style="list-style-type: none"> ・地下だが必要な面積も確保できる等美術館としての利用は可能と考えられ、地上部の公園との連携も期待できる ・地下特有の課題(地下水や埋設物等)に対する検討が重要 ・既存構造物の再利用をすることは、環境負荷の低減が期待でき、行政としても非常にチャレンジングで評価に値する 		<ul style="list-style-type: none"> ・民間ビルに公共施設が一緒になることによって総合的に都市デザインに繋がっていくことは意義があると考えられる ・ビル全体のコンセプトや開館時間、将来の更新計画等、開発計画のみならず開館後の運営面でも民間ビル側の意向にかなり左右されることが懸念される ・開発計画からの調整となると、かなりの時間を要すると考えられ、実現性が不透明というのは妥当 	



※警固公園地下駐車場の検証

警固公園地下駐車場について、既存構造物の構造的な検証、美術館としての活用可能性の検討を行いました。

(既存構造物の構造的な検証)

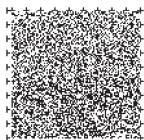
警固公園地下駐車場の既存構造物が、美術館として活用することが可能な構造的な健全度を有しているか確認するため、コンクリート圧縮強度試験、中性化深さ試験、鉄筋の腐食状況、ひび割れ・漏水状況調査を行いました。調査の結果、構造的に致命的な欠陥となり得る劣化等はみられず、今後の改修において必要な対策を行うことで対処が可能であり、また、構造的な安全性の確認を行った結果、高い構造的耐力と耐震性を有する健全な構造物であることが確認できました。

(美術館としての活用可能性検討結果概要)

展示室として必要な規模感として想定した、床面積約2,000～2,500㎡程度、高さ約4～5m程度の空間が確保できるかを確認したところ、必要な補強を施せば、上記の空間の確保が可能であることを確認しました。

●評価・比較

対象とする複数の土地について、比較検討の評価項目に基づき、評価比較をした結果、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できることなどから、「警固公園地下」を拡充先としました。



WEBサイトはこちら



令和8年6月 編集発行
福岡市経済観光文化局アジア美術館 魅力向上検討担当

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8階

TEL 092-263-1107 FAX 092-263-1105

https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/faam-miryoku/shisei/ajibi_miryokukoujou.html

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

